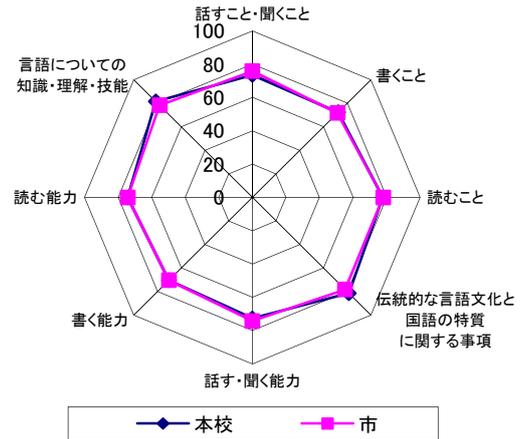


宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	73.6	75.9	71.7
	書くこと	72.3	71.8	73.2
	読むこと	77.8	78.0	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.4	78.2	79.4
観点別	話す・聞く能力	72.6	74.2	70.8
	書く能力	70.3	70.4	71.0
	読む能力	74.3	74.3	75.0
	言語についての知識・理解・技能	81.5	78.2	79.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

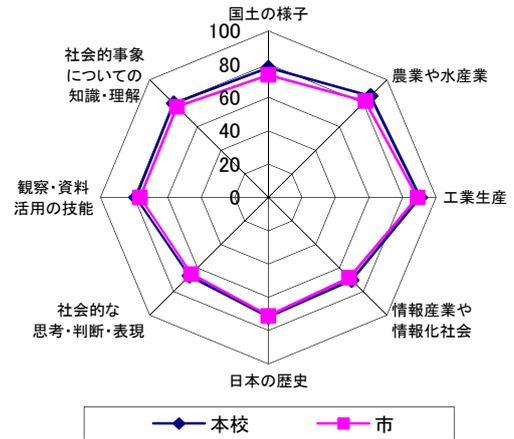
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均正答率と比べ2.3ポイント低くなっている。</p> <p>●話し方の工夫を考えながら話合いの内容を聞いたり、司会者の役割を理解して計画的に話合いに臨んだりすることに課題が見られる。</p>	<p>・話し合うときには、進行役(司会者)、話し手、聞き手の役割分担を明確にする。特に、聞き手は、話し手の意図をよく考えながら聞くように心掛け、聞く活動の充実を図る。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均正答率と同程度である。</p> <p>○与えられた情報を読み取り、修正する箇所を理解することの正答率は、市と比べ3ポイント高くなっている。また、指定された長さで文章を書くことの正答率は86.2%、2段落構成などの条件で文章を書くことの正答率は84.0%であった。</p> <p>●与えられた情報を読み取り、話合いの内容をふまえて、必要な情報を書き足すことの正答率が39.9%で市と比べ3.6ポイント低くなっている。</p>	<p>・すべての学習において、理由を付けて考えを発表したり、書いて考えを表現したりする活動を一層充実させる。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均正答率とほぼ同程度である。</p> <p>○場面の描写や登場人物の心情など、物語の内容を読み取ることはよくできている。普段から読書活動を多く取り入れているためであると考えられる。</p> <p>●説明文において、目的や必要に応じて、文章の内容を的確に読み取ることの正答率が71.3%で市と比べ6ポイント低くなっている。</p>	<p>・読書の時間に、物語だけでなく説明文を読む活動を充実させる。また、説明文の学習を中心に、段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に把握できるようにさせる。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均正答率に比べ3.2ポイント高くなっており、他の領域よりも高い。</p> <p>○第6学年の漢字の読み書きはよくできている。また三字の熟語の構成、文の中における主語、敬語の使い方についての正答率が高い。特に、尊敬語の使い方についての正答率は79.8%で市と比べ10.1ポイント高くなっている。</p>	<p>・当該学年の漢字だけでなく、前学年までの漢字についても、繰り返し練習する機会をもたせる。また、普段の学校生活や他の教科学習の中でも漢字を使っていくように指導する。</p>

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	77.9	73.6	76.2
	農業や水産業	86.2	81.9	77.5
	工業生産	90.4	88.9	83.4
	情報産業や情報化社会	70.2	68.2	61.0
	日本の歴史	71.8	71.1	70.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	66.6	65.1	62.1
	観察・資料活用の技能	78.9	76.5	75.2
	社会的な事象についての知識・理解	79.9	77.1	76.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

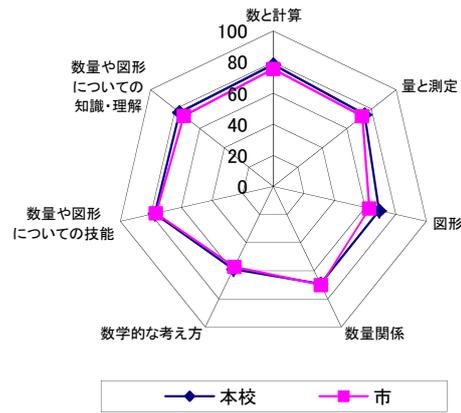
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は、市の平均正答率と比べ4.3ポイント高い。 ○「日本の周辺の海洋名」の正答率は93.6%で、「日本の地形の概要についての理解をもとに資料を読み取る」の正答率は80.9%であった。 ●「主な国の名称と位置」は76.6%で、「公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ」について考察する正答率は53.2%であった。	・地図や地球儀、デジタル教材などの視覚的にとらえられる教材を利用する活動を多く取り入れていく。 ・知識の定着を図るために、白地図に書き込む活動や統計資料などから読み取りをする活動を取り入れる。 ・思考力・判断力を高めるために、環境問題や世界の国々について、自ら調べ、解決策などを考え判断させる活動を行っていききたい。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均正答率と比べ4.3ポイント高い。 ○「稲作に従事している人々の食の安全確保のための工夫や米の輸送・販売の費用」を読み取る問題の正答率は90.4%で、「稲作に従事している人々による品種改良の目的について」考察するの正答率は91.5%であった。	・授業や単元を通して、児童が主体的に活動できるよう学習問題の設定を工夫する。 ・資料から読み取ったことや自分の考えをまとめ、自分の言葉で表現する時間を取り入れていく。
工業生産	平均正答率は、市の平均正答率と比べ1.5ポイント高い。 ○「様々な工業製品」の正答率は95.7%であった。	・地域の教材と関連付けさせて、身近な事と捉えさせ、意欲的に活動に取り組めるようにする。 ・社会科見学を継続的に実施し、事前から事後まで系統立てて学習できるようにする。
情報産業や情報化社会	平均正答率は、市の平均正答率と比べ2ポイント高い。 ○「情報ネットワークと国民生活とのかかわりについて」資料を読み取って答える問題では、正答率が71.3%であった。 ●「放送、新聞などの産業の役割や責任」の正答率は69.1%であった。	・身近な社会的な事象やニュースや新聞で取り上げられている問題を多く授業に取り入れ、生活と関連付けさせながら学習を進めていきたい。 ・身の回りにある情報から、必要な情報を精査することの大切さを知ること、正しく安全な情報活用の方法について、十分に理解させたい。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均正答率と比べ同程度である。 ○「元との戦い」について資料を読み取り答える問題は、正答率が92.6%で、「水墨画について」は92.6%であった。 ●「農耕が始まったころの様子」では、正答率が53.2%で、「国学や蘭学」では、正答率が61.7%であった。	・資料から読み取ったことや自分の考えを自分の言葉や文章で表現する時間を多く取り入れていきたい。 ・デジタル教科書やNHKデジタル教材などを継続的に活用して、視覚的に歴史的な事象を捉えさせるようにする。 ・年表などの資料を利用し、歴史を時系列的にも理解できるようにしたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.5	75.6	75.8
	量と測定	74.4	72.5	71.2
	図形	69.1	62.8	71.0
	数量関係	69.3	70.1	66.0
観点別	数学的な考え方	58.8	57.2	52.7
	数量や図形についての技能	77.5	76.7	74.1
	数量や図形についての知識・理解	76.6	73.0	77.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

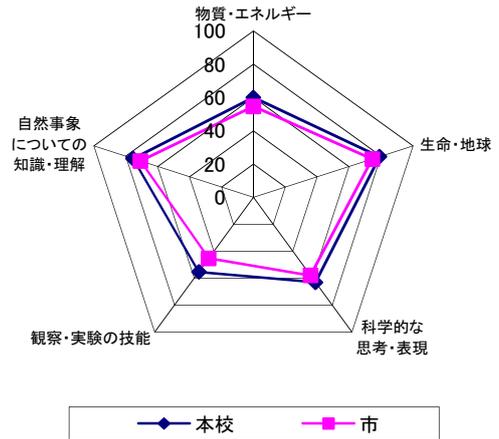
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均正答率と比べ2.5ポイント上回り、他の領域よりも比較的高い。</p> <p>○小数の計算がよくできている。</p> <p>○図を使って、分数の除法の文章問題に合った式を選ぶ問題の正答率は54.3%で市と比べて14.9ポイント高かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を図を使って表現することができるよう、順序立てて考えられるようにする。 今後も、ドリル学習による計算技能の向上を目指す。
量と測定	<p>平均正答率は、市の平均正答率と比べ1.9ポイント高い。</p> <p>○高さが図形の外にある三角形の面積を求める式を選ぶ問題の正答率が市の平均正答率と比べ8.9ポイント高い。</p> <p>●台形の面積を求める問題は73.4%で、市の平均正答率と比べ4.8ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 模型などを使って、形をいろいろな角度から見るができるよう、柔軟な見方を育てる。 単位量を使う生活場面をあげて、具体物や線分図などを用いて思考させ、説明できるようにする。
図形	<p>平均正答率は、市の平均正答率と比べ6.3ポイント高い。</p> <p>○円の直径から円周を求める式を選ぶことができる問題の正答率は市の平均より29.2ポイント高い。</p> <p>○単位量当たりの考え方を使って値段を比べ、その方法を説明する問題の正答率が78.2%で市と比べて1.8ポイント高い。</p> <p>●七角形の内角の和を求める式を選択する問題の正答率が55.3%であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 辺の長さや図形の面積など公式や単位に注意して説明できるようにする。 作図を通して、多角形の内角の和を求める方法を理解させる。
数量関係	<p>平均正答率は、市の平均正答率と比べ同程度であった。</p> <p>○文字を使って2つの数量の関係を式に表す問題は89.4%で市の平均正答率と比べ6.5ポイント高かった。</p> <p>●比の値を使って、必要な材料の量を求める方法を説明する問題の正答率が30.9%で、市の平均正答率と比べ4.8ポイント低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> これまで通り日常生活に直結するような問題を解くことで、意欲的に学習できる環境を整えるようにする。 比を使った計算について、生活の場面に応用できるような問題を取り入れる。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	60.0	54.6	57.5
	生命・地球	79.0	74.5	75.4
観点別	科学的な思考・表現	63.0	58.0	59.6
	観察・実験の技能	55.3	45.3	50.6
	自然事象についての知識・理解	75.4	70.7	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の正答率と比べると5.4ポイント高い。</p> <p>○全ての内容で市の正答率を上回っている。特に、「水溶液の性質」の正答率は、市の正答率と比べて約10ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題把握、予想、実験、結果、考察という一連の学習の流れをしっかりと行ってきたので、それを継続していく。 考察を教師が画一的に行うのではなく、児童一人一人が自分の言葉で表現することで知識・理解を自分のものとさせ、内容がしっかり身に付くようにする。
生命・地球	<p>平均正答率は、市の正答率と比べると4.5ポイント高い。</p> <p>○「動物のからだのつくりとはたらき」以外の正答率は、全て市の正答率を上回っている。特に、「植物のつくりとはたらき」では、約10ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察の結果を要因と関連付けながら考察するという、基本的な学び方を再確認し、きめ細かな指導を心がけることで、生きて働く知識の習得を図る。 植物の観察等では実物を用意し、十分な時間を取って細かく観察させる。「動物のからだのつくり」など実物を用意することが難しいときには、模型や映像など、視覚的に分かりやすい教材を準備し、児童の理解を深めさせる。